

第3回 南砺市公共施設再編計画検討委員会 会議録【要点筆記】

1. 開催日時 平成22年9月16日（木）午後7時から9時
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 2階講堂
3. 出席者 ○委員14名
大塚千代、沖田光弘、川合声一（副委員長）、北田正雄（委員長）
久恵博明、斎藤れい子、得能新太郎、中西鐵三、
野原恵子、長谷節子、藤井信行、藤井美由紀、細川 哲、松川 功
○アドバイザー1名
新町栄一
○行革推進本部6名
平本市長政策室長、下田総務部長、三谷民生部長
大浦産業経済部長、上坂建設部長、永井教育委員会理事
○公共施設検討小委員会2名
宮崎委員長（利賀行政センター 次長）
丸田副委員長（財政課 管財係長）
○事務局（総務課）4名
一二三総務部次長、村上副主幹、長岡主任
4. 欠席者 ○委員2名
大村 元、能登貴史

○開 会 19時

（総務部次長）

ご案内の時間もまいりましたので、只今より第3回南砺市公共施設再編計画検討委員会を開会いたします。委員の皆様には、お疲れのところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様には、9月7日に温泉・スキー場・宿泊施設と合計21施設の現地視察をしていただきました。各施設とも時間の関係から大変窮屈な日程で進めさせていただき、大変恐縮しております。ただ、施設運営の一端を見ていただくことが出来たのではないかと考えております。

本日の委員会でございますが、6月24日に開催いたしました第1回の検討委員会でも申し上げましたが、公共施設再編計画の中で、市が特に重点施設と位置づけております温泉・スキー場・宿泊施設について集中審議願いたいと思っております。

また、市当局からは関係部長が出席させていただいております。詳しくはお手元の資料をご確認いただければと思います。

それでは、開会にあたりまして、総務部長からご挨拶を申し上げます。

○部長あいさつ

(総務部長)

皆さまにおかれましては、夜分お集まりいただきありがとうございます。第1回の検討委員会で沢山のご意見をいただき、第2回では現地視察をしていただき、今回は第3回となるところですが、第1回の委員会でご指摘をいただきました点について資料を準備したつもりでございます。

今回は少し議論のポイントを絞りたいということで、事務局からその点につきましても説明をいたしますので、参考に議論いただければと思います。

○会長、副会長あいさつ

(総務部次長)

それでは、委員長様からご挨拶いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【委員長】

皆様夜分に今日一日の仕事でお疲れのところと存じますが、第3回の委員会案内をいたしましたところ、定刻までお揃いでおいでいただき、心から厚く御礼申し上げます。また、あいにくの雨模様で足場も悪いところ、ご参集いただきまして重ねて感謝申し上げます。

また、先般は事務局から申し上げましたとおり強行軍でございましたが、何処にどのような施設があるのか、十分に理解していないという意見がございましたので、皆様方お揃いで各施設を視察いただきまして、各施設十分な時間も取れませんでした。1日かけて廻っていただき、南砺市は広く様々な施設があることを感じていただき、1つの施設だけでなく、それぞれの施設の関連も見えたのではないかと考えております。

この後これらの施設について検討いただくわけですが、いずれにしても会議の中で、私達がどこまで踏み込んで話しすれば良いのか？また目的は何だったのか？についても説明させていただき、皆さんの意見を伺っていきたくて思っております。

いずれにしましても、再編について市役所内部にも関係職員による委員会を設けて平行して検討を進めているということで、その経過についても触れていただいて、会議を進めていきたいと思っております。あまり時間もない中でございますので、早速会議を進めさせていただきますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

○議事

(総務部次長)

それでは早速でございますが、協議に移らせていただきます。ここからの進行につきましては、委員長さんをお願いいたします。

【委員長】

それでは早速ではございますが、資料も出てきているところでございます。温泉、スキー場、宿泊施設について集中審議をすることになっておりますが、どうしてそうなったの

か？また、この委員会の目的は何だったか？について、第1回の委員会から月日も経過しておりますので、もう一度おさらいも兼ねて事務局から説明をいただいてから会議を進めたいと思います。

〔事務局から説明〕

「公共施設再編計画検討における基本的な考え方」.....**別紙**

【委員長】

公共施設再編計画検討における基本的な考え方という部分について説明いただきました。公共施設の再編がなぜ必要なのかについて、共通の理念を持ちたいと思い説明いただきましたが、この時点で質問等ありますでしょうか？

【アドバイザー】

最後に説明されました当委員会の位置づけと、懇談会への答申について今後のスケジュールを教えてくださいませんか。

(事務局)

ご意見をいただく目処ということでございますが、温泉、スキー場、宿泊施設につきましては、10月末を目処に行政改革懇談会で審議いただきたいと考えております。ということで、本日9月16日に皆様からのご意見をいただき、次に10月上旬・中旬にかけて、1・2回の委員会を開催したいと思っております。

【I委員】

答申をするということは、この委員会で意見を纏めるということですか？

【委員長】

当然、委員の皆様方の考え方や、見方が異なっていると思いますので、当委員会としてどういう方向性が良いのか？ということをお聞きさせていただいたらありがたいと思っています。

【I委員】

決定の際は、全会一致ですか？多数決ですか？

【委員長】

これは、多数決で決めるものでもないと思っております。全会一致で意見を集約できればそれに越したことは無いと思いますが、どうしても決まらない場合は賛否両論をどう纏めるのかという問題もあると思っております。

【F 委員】

行政側からも本検討委員会で、腹案として「2割削減を期待している」とか具体的なものは無いのでしょうか？というのも、尺度をどこに置けば良いのかが分かりません。各地域においては存続を希望されていることは間違いないことですが、それでも削減していかなくてはならないという状況にあるならば、行政としてはこの3施設類型でどれくらい削減したいか示された方が良いのではないのでしょうか？

【委員長】

当局に返答を求めるのも大変難しい問題かと思いますが、私の感覚では検討委員会で、こうした施設を存続させるべきか、廃止するべきかという方向づけだけは決めていくべきだと思っております。国の予算のように一律10%カットとはいかないのではないかと考えているのですが、当局はどうですか？

(総務部長)

基本的には2割減とか3割減とかそのような話ではないと思っております。

本委員会においては、個々の施設についての存廃の方針が出せば良いのですが、難しいようであれば、温泉、スキー場、宿泊施設といった類型別の方向性について、例えば温泉施設全体としてのどのような方向を目指すのかについて、検討していただければと考えております。

【委員長】

抽象的になりますが、それ以上の話はなかなか難しいのではないかと考えています。

【D 委員】

公共施設の検討委員会ということで、私は応募する際に温泉、スキー場、宿泊施設の限定とは思っていませんでした。

私は委員会の委員に特に図書館について不満を持っていますが、この委員会では論議できないことが残念です。資料には図書館については別途委員会を設けて検討するとなっていますが、図書館の現状をよく判っている人もしっかり入れて話し合いをしてもらいたいと思っています。

【委員長】

ご意見としては十分判りますが、本委員会として範囲を広げると限りがなくなると思いますので、後ほど本委員会の結論が出た後の付記として、D委員の意見も載せさせていただければと思います。

【L 委員】

議論に入る前に確認したいのですが、提案されております温泉、スキー場、宿泊施設につきまして、抜けているものが無いのか？要するに市の財政負担が伴っている施設はここに挙げられているもので全てなのでしょうか？

【委員長】

それは、スキー場について他にあるのではないかとということでしょうか。

【L 委員】

例えば、温泉・宿泊施設あたりで第3セクターなど色々な形で市が財政負担しているものが無いのか？ということです。

(総務部長)

L 委員ご指摘の内容は、井波の「木彫りの里」だとか、福野の「アミューズスポーツクラブ」を指しておられるのではないかとと思いますが、これらの施設については設置主体が第三セクターで民設民営の施設でございます。

これらについては、第三セクターとして市から支援をしておりますが、公共施設ではないことから今回の対象からは外しております。

【I 委員】

第三セクターが財政面から見ても一番の曲者であり、本来入れるべきだと思います。

今、第三セクターが一番問題になっており、市の施設ではないから関係ないというのではなく、財政負担も考えても入れるべきだと思います。

もし、破綻した場合は大きな影響を受けるのではないですか？受けないのならよいのですが。

(総務部長)

第三セクターについても出資割合に応じて責任はございますので、存続させるために支援もしており、影響はあると思っております。

先ほど委員長の話にもありました、対象施設を広げればキリがなくなってしまいますので、今回の計画策定につきましては公設のものに絞って議論をお願いしております。

【I 委員】

それ以上は言いませんが、おかしいとは思いますが。

資料もありませんし、時間もかかりますので本題に移ってください。

【委員長】

それでは次に移りまして、本日提示されております資料について事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

「スキー場・温泉・宿泊施設の考察と方向性」資料1

「耐震・リニューアル・立替工事を含んだ今後50年間の経費予測」資料3

「温泉・スキー場・宿泊施設に係る再編の方向性について」資料4

【委員長】

この資料について、非常に細かい数字が出ております、分かりにくい点などありますでしょうか？

〔特になし〕

【委員長】

特に無いようでございますので、概ね流れは理解していただいたということで先に進めさせていただきます。

只今、事務局から申し上げましたとおり、当委員会に付託されております3つの施設類型について、皆様方がどのように受けてとめているのかについて、お話いただければと思います。

では、始めに温泉施設について行政がどのような対応をすればよいのか、ご意見を願います。

例えば「機能強化してしっかりやれ」とか、「全面的に民間に委託してやれ」とか、様々なご意見があると思いますが……。個別施設別には言いにくい部分もあるかと思いますが、温泉施設全体についてお話しいただければと思います。

【L委員】

温泉施設というより全般的な話になるのですが、先般、施設の現地視察をさせていただき、非常に駆け足ではありましたが、規模の大小に関わらず各々地元に定着した施設で、皆さん非常に期待されていることが良くわかりました。

本日の議論の進め方について、資料4の右側下部分を提示されておりますが、要するに個別に判断するということかと思っておりますが、私の意見では何れも優劣つけがたく、当面全ての施設は全て残すべきではないかと思っております。

その理由については、施設の規模の大小に関わらず地元に定着しており、それなりに利用されていること、また地域振興策として地元の雇用に役立っていること、それから先日行われた地元関係者や指定管理者との意見聴取会議の資料の中にもありましたとおり、個別に廃止することへの反発、また廃止する場合は明確な理由づけを客観的な数字で示して

ほしいという意見もあり、それを示すことはかなり難しいと考えられること等から、施設は全て残す方向でどうかと思います。

但し、市は経営から全て退いて民間への売却、又は譲渡、又は貸与するという事、そしてその場合の要件として、1つ目にはスケールメリットを生かすという意味でも可能な限り各施設を一括して行うこと、また2つ目として〇〇財団などの当て職的な方について十分な経営ノウハウがあるのか疑問であるという意見もありましたので、十分に経営のノウハウを持ち、また資金力も豊富な団体を選考するという事、そして3つ目には地元住民を雇用することとすればどうかと考えております。

また、売却・譲渡については、所有権が移れば当然固定資産税を払わなくてなりませんので、それだけの体力が無い場合には貸与という方法もあるのではないかと思います。

売却・譲渡・貸与の相手先が無く、いずれも無理であった場合は、原則廃止することにすればどうかと思います。

【D 委員】

資料を見ていると指定管理料が毎年すごく増えている施設もありますし、減っているところもあります。これは、その施設の経営者のやり方が上手くいっているかどうかということではないでしょうか。マイナスだからといって市からの指定管理料が大きくなっていくようでは税金の無駄です。

また、本日いただいた資料3についてですが、未だ新しい施設についても数年後に建替え時期になっているように思えます。しっかりと建設年度とかを考慮しているのか疑問ですし、(このまま実行されるとすると) 予算の無駄遣いだと思います。

【委員長】

指定管理料については、恐らくその時に修繕か何かがあったのではないかと思います、資料があれば説明をお願いします。

また、建設年も考慮に入れてあるのかについても併せて説明をお願いします。

(事務局)

指定管理料増加の要因については個別に調べてみませんと、この場では答えかねるところではありますが、何かしら特殊要因によるものでありまして、一概に経営状態が悪いから上がっているということではございません。

それと、もう一つの将来における建替えスケジュールの考え方についてですが、見かけは新しくても建設年が古い施設もございます。例えば五箇山荘などは、現地視察で見ただいた際も非常に新しく見えたと思いますが、あくまでも内装の改修を行っただけで、建物の骨格は非常に古いものでございます。基本的には鉄筋コンクリート造りの建物の耐用年数を40年と想定して資料をつくっておりますので、五箇山荘なら建設年から40年経過するのが表にある年度ということになり、リニューアルした施設については想定耐用

年数を少し延長することも考えられますが、リニューアルの規模などを考慮することは難しく、一律建設年からの年数で予測させていただいております。

また、この資料はあくまでも今後50年継続して施設状況を保つことを前提に必要な経費を予測しているものでございまして、このスケジュールどおりに工事を進めるというものではございません。

新しく見える施設についても基礎部分については、けっこう古い施設もあるのだということをご理解いただければと思います。

【D 委員】

それでは、指定管理料には人件費は入っていないですよね。

(事務局)

一概に指定管理料に人件費が含まれているとは言えません。考え方としては施設の利用料金と、市からの指定管理料の収入によって、人件費も含めた管理経費を捻出して施設を管理していただいておりますので、どの部分が人件費であると分けることは出来ません。

それと、指定管理料が増えている場合はなんらかの特殊要因がございまして、赤字が大きいためその分を指定管理料で補うという考え方は基本的にはありませんので、赤字分については、指定管理者の方で責任を取っていただくということになっております。

【D 委員】

ある施設ではこの不景気の中でも人件費がどんどん上がっています。市としてもその辺を確認して精査してほしいと思います。

【E 委員】

この検討会につきましては国でやっている事業仕分けのように「これは切る、これは残す」と簡単にはいかないと思っています。先日現地を見せていただきましたが、地域振興とか活性化のための施設として造られているもので、そこには雇用の創出など地元にとっては大変重要な施設となっています。

それと共に、例えばスキー場と温泉施設が相乗効果を持っているということも考えると、これからは民間手法の方向で考えていくべきだと思いました。

しかし現在の指定管理料の算定については、今程の話しにもありましてとおり、直営時代の経費に基づいて算定されているようでありますので、あらゆる角度から検討し、現状のままでなく人件費も含めた最低限の金額を算定していただく方法が良いのではないかと思います。

そしてその金額について各施設に提示し、その金額で運営していただくようお願いすることが必要なのではないかと考えております。

【H 委員】

市の方にお伺いしますが、どの施設を残したいと思っておられますか？

それと、南砺市のパンフレットを外から来たお客さんに見せると「なんと、財政が豊かな市ですね」と言われます。また、自分達はやはり地元の温泉を薦めますが、その他の温泉についても薦めると、距離が離れているといわれます。

市役所の方々がどれを残したいのか、本当の腹の内を見せていただきたいと思います。

【委員長】

市当局もその辺がなかなか決められないので、当委員会で意見を集約しているということでございますので、市当局にどの施設を残したいのか聞くのもどうかと思います。

(総務部長)

E 委員の意見にありました指定管理料算定の見直しについてお話させていただきます。

指定管理料については原則3年の指定期間で見直しを行っております。また、これらの施設につき、一部の特殊事情がある施設を除きまして基本的には公募しておりますので、申請の際にはその施設の管理経費についても「このくらいの経費で運営できる」という提案を頂き、その金額とサービスの提供内容を審査したうえで新しい指定管理者を選んでおりますので、あくまでも今までの管理経費を踏襲していくというものではないということでご理解ください。

【I 委員】

先日の見学会で、各集落では様々な苦勞をしながら運営しているのはよく判りました。ただ、私はそれを見た後でも全てが必要なのかと今でも思っております。

極論のようなことを申し上げますので、反対意見の方もおられると思いますが、現在挙がっている施設は全て南砺市の施設で、それが現在指定管理に出ているわけですが、我々民間から見ますと、建物とか設備が準備されており、指定管理料ももらって、修繕や修理もしてもらえとは、これ以上いったい何の支援があるのかと思います。

民間の考え方ですと、リニューアルや建替えの費用についても自分達でやりくりするのが当然ですし、なぜ自分達で出来ないのかが分かりません。

また、先日の議会中継をTVで見えておりましたら、スノーバレー利賀スキー場のリフトの支柱がずれて昨シーズン休業していた件について、その修繕工事費7,000万円の補正予算が採択されておりました。ということは、あのスキー場については我々の意見を待たずして残すという意味にとれますが、そこまでやらなくてはいけないのかと思います。

議会の中でも地域振興とコミュニティーのためと説明されておりましたし、今回いただいた資料中にも、地域の意見としても同じ意見が多くありまして、廃止するなら別の地域振興策を何か準備してほしいという意見もありました。市が全てお膳立てをして、それではなければ出来ないというのはおかしいと思います。

確かに各施設は造った当時は意味があって、それなりに活躍してきたのだと思いますが、世の中はIT技術の進歩や経済のグローバル化など急激に変化しており、民間企業も地域だけでなく、日本でもなく、世界を相手に仕事をしている時代に、南砺市のしかも狭い地域の単位で考えていても仕方がないと思います。

また、限界集落という言葉が出てきますが、限界集落は山間部だけではなく都会でも出てきています。私の集落でも20軒くらいの世帯で構成していますが、65歳以上の高齢者世帯が大半を占めており限界集落と同じ状態となっており、山間部だけがどうこうという話しではないと思います。

私は温泉、スキー場、宿泊施設というものが、どうしても市として必要なものとは思えない。地方自治体の役割として住民福祉の向上というものがありますが、本当にこれら施設がそれに当てはまるのか、最低限無くてはならないものなのかと考えるともっと大事なものがあるように思います。全てを一から洗いなおして、基本的には全ての施設を譲渡なり売却なりして、各々で運営していけばよいと思いますし、個人的には止めない理由が分かりません。このままだと全て潰れてしまうと思います。

(総務部長)

その件につきまして明確な答えとはいきませんが、我々所有している立場から申し上げますと、当然不採算であるからこそ指定管理料が発生しており、採算が取れていれば指定管理料は要りませんので、そうであれば民間譲渡して成り立っていく可能性も大きいということでございます。しかし、これらの施設については立地条件等から不採算である施設がほとんどであり、では今ほど委員の話にもありました「なぜ不採算の施設を残す必要があるのか？」ということについてですが、それについては、俗にいう里山や山林といったものの管理を考えますと、人がいなくなっても管理が出来るのかという話しもございます。自然林でよいという意見もございますが、そうではなく、里山が平野部を潤す源であり、山林が海の豊饒をもたらす源であることを考えた場合に、それらが荒れ果てることの無いように、人の手を入れて管理しなければなりません。しかしその手入れの管理だけで生活が成り立ち、集落を維持できれば問題ないのですが、ある程度の人を確保するためには、その他の産業も必要であるということでもあります。

このような考え方のもとに、不採算な施設ではあるが、そういった地域の維持のためにやっていると私どもは考えております。

【I 委員】

それは考え方が甘いと思います。それでやっていければよいのですが、実際に財政が逼迫していると言っておられるのですから、そのために当委員会で検討しているのではないですか？

大体、修繕費やリニューアル経費等は自分達で出すのが当たり前だと思います。なぜ市が負担しなくてはならないのか理解できません。毎年11億ものお金を出せるのですか？

余裕はあるのですか？

(建設部長)

切り口を変えた話を申し上げたいと思います。

資料にあります各施設の収入と支出ですが、この中で市からの指定管理料を除いたものがその施設独自の収入であります。そして支出はその施設で使っている部分でございますので、今の資料では指定管理料を含めたプラスマイナスが書いてありますが、そうではなく指定管理料を除いた場合に、どれくらいのマイナスになるのかを考えてみればどうかと思います。それでいながら沢山の人が来られるということであれば、それなりの効果があるのだと思います。

そういったことから考えると、その施設について直接マイナスになる金額を利用者数で割りますと、市のほうから利用者1人あたりにつき、どれくらいの補助が出ているのかが判ります。

そこで私の方で計算をしてみたところ、例えば温泉施設では「ぬく森の郷」については黒字でありますので、この施設をどうするかという話しは無いのではないかと考えております。とすれば、あとマイナスのところはどうか？といいますと、例えばある温泉では一人当たり1,000円の補助をしているところもあり、少ないところでは200円の補助をしているところもあります。

相対的に考えますとなかなか難しいところではありますが、200円の負担なら良いだろう、1,000円の負担までは難しいという切り口で考えることも必要ではないかと思えます。

【委員長】

単純に割り切れない部分もございますので、様々な議論が出てくるように思います。一人一人何が公平で、何が平等かということは、大変大きな問題だと思います。

例えば旧の五箇三村。言うまでもなく人口が非常に少なくなっており、効率だけで考えて、本当にその地域だけで保持できるのかという問題もあります。

【K 委員】

3つの施設につきましては、どれをどうするという話しはなかなか難しいと思います。

先ほどの資料では50年間で平均しますと年間11億ずつの支出となっておりますが、50年というスパンは余りにも長いのではないかと思うのですが、5～10年、合併特例債が切れる4年後からその後10年後までを見て財政的にどのように苦しくなるのかを考えると、我々のように太ったものでも食料が無くなると必然的に削られて痩せていかないと命を維持できなくなると思います。

そこで、委員の皆さん方に「どの施設を？」と聞いていても難しいと思いますので、例えばお金で絞っていくこととして、温泉なら今後何年間の間にどれだけにするとか、スキー場ならどれだけにするとか、生かしたいもの、完全に無くしてしまうもの、ここでは曖

味な言い方ではなしに、はっきりと温泉施設は5つのうち2・3施設、スキー場は1つでよいとか2つにするとか、市の皆さんには申し訳ないのですが、そういった極端なやり方で、逆にそれに後から理屈をつけていくというやり方が良いのではないかと思います。

最後は先ほどから出ていたとおり、税金の無駄遣いというか、人口も減ってきて、高齢化も進んでくると、市の収入も減ってくると思います。そうすると無駄なものから廃止、受けてもらえる方には譲渡、無償譲渡もあると思いますが、他にも取り壊しとか、取り壊しにもお金がかかりますので、大変でしょうけどもそういうやり方で、この先1年間で議論するのでしたら時間もあるのですが、短い期間で決めないといけないということで、大雑把にでも切るところは切ってしまうといけないと思います。

【アドバイザー】

皆様方のお話を聞いておりますと、ご指摘の鋭い話や、ごもっともな意見など沢山の意見がございました。冒頭に委員さんから2割カットという中で考えてはどうか、という非常に現実的な意見も出たわけですが、仮に2割ということにしましたら、2割をめぐるの足し算引き算になってきて、本来の“あるべき論”の話しが掘り下げられないのではないかと思います。

また、全施設譲渡するとか貸与するとか様々な意見がございましたが、そのこと自体は非常にスッキリして良いと思いますし、また、儲からなければ止めればよいという意見もございまして、これもまたスッキリしたといえればスッキリした意見でございます。

私も皆さんと一緒に現地視察をいたしまして、それぞれに歴史があり利用されている方もございますし雇用もある。そして、経済的な合理性だけで見るということではありませんが、一方では温浴施設につきましては、地元の方々の福祉的な施設になっているものもあるということでもございました。

その一方で本検討委員会の主旨として、南砺市におきます公共施設の維持費が30億という市税の約半分を占めているというお話が前回の委員会でもありました。

そして、本日資料3として示していただいたものを見ますと50年の減価償却費的な考え方に基づいて、常日頃のリニューアル更新等を行っていくという前提での数字として試算されましたところ、1年にかかる経費が仮に11億円ということでもございまして、今ほども50年で考える必要もないのではないかと、というご意見もあり、それもごもっともですが、さらに短期で見た場合にはタイミングによってはもっと大きな金額に跳ね上がることも考えられます。そうした様々な要因を考えますと、この場ではなかなか收拾がつかないのではないかと思います。

本日の資料にも施設毎に必要な性や有用性や効率性などの視点から検討されておりますので、それに基づき、どうした処理の仕方がふさわしいのかということも、恐らく検討された上で本日の資料が出来ているのではないかと推察いたします。

冒頭にも説明がございましたが10月末までにこの会で結論を出す。若しくは結論を出さないまでも大方の方向性を示さないといけないという話もございまして、私とすれば、

市の方には短時間で大変だと思いますが、本日出ました意見も入れられて、市としてどうすべきなのかといった案を提示していただき、それを視聴していただいた後ご意見をいただき、真摯に受け止めた上でお諮りするという手順がふさわしいのではないかと思います。

一点補足をさせていただきますと、**資料3**のところでは先ほどから指定管理者の話が出ておりましたが、一般的には物価のスライド1%という計算をされておりますが、3年おきに見直しをかける際、民間の方が請け負う際には施設も老朽化が進むことを考慮いたしますと、これよりも棒グラフの傾斜はもっと大きくなると思います。そのこともまた念頭におかれまして、市としてトータルの考え方に基づく案を示していただかないと、この場では合理性の問題や、福祉、そして地域の雇用などを見渡した際に、どうあるべきなのか？ということを経由されて、案として出されて、それに対して意見を受けられるという進め方が良いのではないかと思います。

【委員長】

ありがとうございました。

【A 委員】

様々なお話を伺いましたけれども、例えば観光戦略といいますか、金沢から道路が出来るとか、東海北陸自動車道が出来たとか、このラインについては、南砺市としては今から外からの人を受け入れるとか、先日の現地視察の際はほとんど人とお会いしませんでした。内輪の話ばかりしていても収入は上がらないのではないかと感じて帰ってきましたが、外からの人を招くとしたら観光戦略として、何処の位置を強化しなければならないのかということも大事ではないかと思います。

また、スキー場など体育施設の中に組み込むことになると、また違ってくるのでしょうか？というのも、クアガーデンでは健康施設という位置づけがあるので、利用料金を上げられないということをおられましたので、目的によって、また補助金の関係で省庁によっては制約があるのであれば、ちょっと難しいのかと思ったのですが、その辺のことを考えると用途変更とかして施設の目的別に分けるとかできないものかと思いました。

また、もう一つには「閑乗寺スキー場」と「IOX-AROSAスキー場」は指定管理者が同じということで、IOXの収入で閑乗寺もやっているのか？という感じもうけましたので、2つ3つの施設を一緒に受けてくれる業者があるのでしたら、それも生き残るための戦略ではないかと思いました。

簡単に廃棄といっても解体にもお金がかかりますし、かといって民間で受けてくれるところもあるのか？とも思いますし、力のあるところでないとなかなか難しいとは思いますが、外から経営者が入ってくると地元が協力しないといった心配もあると思いますし、非常に迷っている状態です。

【委員長】

先ほど建設部長からも話しがありましたとおり、一人当たりの経費はどれくらいかかっているのかという資料が会議の途中で配布されました。簡単に資料の説明をお願いします。

〔L 委員から資料説明〕

「公共施設（温泉、スキー場、宿泊施設）の利用者負担割合」 L 委員作成の資料

【副委員長】

先ほど観光ということでございましたが、五箇山でも民宿に泊まった場合に温泉がないと困るといった意見がありました。外から来るお客様に対するおもてなしという部分で、外からお金を稼ぐという部分と、地元の方が福祉的に使うという部分があると思うのですが、この辺を色々と調べてみますと、外から使われる方よりも地元で福祉的に利用する方が多いようでございまして、観光戦略としてこれからどうなるのかということはあるのですが、現実を直視してやっていかないと、将来バラ色なことやっていくとは難しいと思っています。

ですから、先ほどアドバイザーさんも言われたとおり、市からのたたき台的なものを出していただいて、そこから皆さんはどのような考えなのかを集約していったほうが、委員会の進行上もやり易いのではないかと思います。

【F 委員】

私は勘が良い方かな？と思っておりましたが、この資料を見ている限り勘が外れてしまいました。というのも、「クアガーデン」が大きな予算がかかっていると思ったらこれだけで、私もよく利用します「ゆ〜ゆうランド」や「ゆ〜楽」なんかは結構流行っているのにこれだけのお金が掛かっているのは驚きました。というのは営業努力が足りない証拠だと思います。こういう施設こそ経営責任者の客単価を上げようという努力が必要だということを非常に痛感いたしました。

ただ、あくまでも勘ですが「クアガーデン」なんかは、会員制の利用者分が影響しているだけで、宿泊施設としては、もっと悪い数字が出ているのではないかと。思いますし、その地域毎の条件がありますので、例えば「天竺温泉」に客単価を上げろといってもなかなか無理なこともございますので、その規模に合わせた経営になるように頑張ってください。各地域にとっては大事な施設でございますので、なんとか潰さずに経営改善によって存続させていっていただきたいと思います。

【J 委員】

まず、先日施設を見学させていただいた時に、一番心に残ったことがありまして、最後に視察させていただいた施設の経営者の方の言葉ですが、「行政や国に頼ってばかりでは駄目なのです。自分達で出来ることは、自分達でやらなければならないのです」と力強く言っておられたことが、私はとてもすばらしい経営者の方だと感動いたしました。また指

定管理料もゼロ円でやっておられるということで、こういう経営者の方が運営されている施設は是非これからも応援していきたいと思いました。

それぞれの施設には良いところもあれば悪いところもあるのだと感じました。また、その施設によって、少しでも沢山のお客さんが来るように努力されていると感じたところもあれば、あまり努力されていないと感じたところもありました。

あと、こんなところに、こんな施設があったのかと思った施設がありまして、その施設はすごく新しく、あまり利用されていないように見受けられました。せっかく新しく綺麗で、とても便利な施設になっているのに、あまり利用されていないのは何故だろうと思い、すぐくもったいないと思いました。

南砺市に住んでいながら、このような施設があることも知らない。もっと「こんな施設がありますよ」と市内だけではなく、県外の皆さんに対しての宣伝やアピールがもっと必要ではないかと思いました。また、そのような宣伝やアピールが無い施設については、意味がないと思います。

あと、本日いただいた資料3を見せていただきまして、50年間に係る経費を均等配分すると毎年11億円という数字を見ると、ゾッとするというか、これから南砺市にずっと住んでいきたいと思っている自分として、また子供達にも南砺市にずっと住んでほしいのに、これだけの経費がかかっていると考えると悲しい気持ちになってしまいます。

このことから、施設の全てを維持するというのは難しいと思います。

【C 委員】

私の方から体育協会ということで、スキー場についてですが、まずはこれだけのスキー場は多すぎだと思います。個々の地域に合併前はそれぞれの町村で造られたわけですから仕方ないと思いますが、合併して一つの市になったのですから、一つの市として考えた場合はまずもって多い。また、少子化が問題となっており、今後この問題がなくなるとは考えづらいと思います。それと温暖化の影響を考えますとスキー場の経営自体も難しくなっていくと思っております。

このように様々な要素を考えますと、施設がなくなるのは体育協会のメンバー的には悲しいことではありますが、潰さなくてはならないものは、はっきりと潰すことにしてしまわないといけないと思います。しかしながら、体育施設としてみた場合には、どうしても国体や高校総体などを中部圏内で開催するために必要な施設となってきます。また、高速道路が開通したこともありますし、金沢などからの誘客も考えると、3箇所・少なくとも2箇所は残すべきではないかと思っています。

それと個々の施設でございますが、それぞれの施設はお客さんから利用料金をとって運営しておりますので、その料金の取り方で経営が出来ればいいのではないかと思っています。しかしながら、リニューアルが必要となると、その分の収入の確保までは難しいと思いますので、その辺は市からの援助をお願いするしかないと思っています。

【G 委員】

私も先日各施設を見させていただきまして、どれも皆、事情が許すものならば残していただきたいと思いながら視察させていただきましたが、数字的なもの道義的なものもございまして、皆様方がおっしゃる意見も皆ごもつともだと聞かせていただきました。

しかしながら、一概に全ての施設を数字とか採算性とか効率性とかといった物差しで図るのは無理があると思います。というのも、先日郵送していただいた資料にありました地元の自治振興会の皆さんとか、経営者の皆さんの意見を拝見しておりますと、やはり同じスキー場の中でも、スキー場が無くても存続できる地域と、スキー場が無いとその地域自体が致命的な打撃を受け存続出来なくなってしまう地域とがあると思うと、ズシンと重いものを感じております。

先ほど委員長さんも言われましたが、公平と平等というのはやはり違うと思います。同じお饅頭があったとしても、お腹一杯の裕福な家の子供に与えるお饅頭と、貧しくて飢えている子供に与えるお饅頭とでは、満足度というか、ありがたみが違うと思います。

もちろん財政的なこともあります。そういった数字の奥にあるものを今一度考慮していただいた上で、先ほどアドバイザーさんも言われました市としての案というものを出しただいて、私達も何か意見を述べさせていただければよいかと思えます。

【B 委員】

合併して引き継いだ資産があるということで、ある時期に見直さなければならない時期が来ると私も思っておりますが、地元で聞いた先ほどの意見にもあり、資料にもありまして、必ず継続してもらわないと困ると、市におんぶに抱っこではないけれども、そのような傾向が見受けられます。

そういう意味でも、南砺市としてはこのような施設はいくつ必要なのか、例えばスキー場が3つとか、宿泊施設なら4つとか、そのような方向付けをまずしなければならないのではないのでしょうか、そしてまた残った施設について、例えば宿泊施設についてはその4つの施設が連携してやっていくとか、現在バラバラで営業しているのを満席の場合にはお互い横に回すとか、もっと連携をとっていくところが必要だと思えます。

そういった意味では、まず施設は南砺市としてはいくつ必要なのかについて考える。そして、指定管理でやっている施設について、市からのアドバイスとか助言をしていただき、とりあえず指定管理料を払っておけば良いという考えではなく、市からもっと積極的なアドバイスも行っていくことが大切ではないかと思えます。

やはり、南砺市としては、どの施設を支えていかななくてはならないという位置づけを、しっかり市当局から示していただいて、この委員会で検討するということが良いのではないかと思えます。

もう一つ、指定管理者制度がありますが、聞いたところによると、指定管理者では「黒字を出すと次年度は指定管理料が減らされる」という考え方で、とりあえずトントンで良いという考え方のところが見受けられることから、その辺の工夫もしていかないとならな

いのではないかと思いますし、人口が減ることばかり言うのではなく、人口を増やすことも考えていかななくてはならないのではないかと思います。

【委員長】

沢山の方々から意見をいただきました。まとめということにもなかなか出来かねるという会議になりましたが、いずれにいたしましても、皆様方の南砺市を良くしたいという気持ちからご発言いただいたものと思っております。

総括いたしますと、出来ることなら市当局の考え方も出していただいて、その中から当委員会の方向性を決めたらどうかという意見が大勢であったかと思っておりますので、副委員長さんと二人で話しをさせていただいて、本日の意見も踏まえた上で市当局とも打ち合わせをして次回の委員会に資料として出させていただきます、方向性を出していきたいと思っております。

アドバイザーさんにおかれましても、現地視察からご同行いただいておりますので、方向性を導き出す際にも是非ご指導をいただければと思っております。

【F 委員】

先に図書館のことが出ておりましたが、私も是非検討していただきたい事項がございますので、この事案が終わった後にも話しをさせていただく機会がありますでしょうか？

【委員長】

もし、そういう意見が多いようであれば、聞かせていただく機会を設けたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

（事務局）

次回でございますが、事務局からの案を示せということであったかと思っております。約半月ほど期間をいただきたいと思っておりますので、10月上旬の開催で委員長、副委員長さん、アドバイザーさんの日程を調整させていただいて、開催させていただきたいと思っております。

【委員長】

それでは、お忙しい中、そしてお疲れのところ、夜分にもかかわらず福野庁舎にお集まりいただき、真剣にご討議いただきましてありがとうございます。もう少し方向付けが決められるかと思っておったのですが、なかなか大変な問題でございますので、アドバイザーさんにご指導いただきながら、皆様方のご意見を踏まえて、次回は方向付けを見出す機会を設けたいと思っております。本日はお疲れのところお集まりいただきまして、重ねてお礼申し上げます。

(総務部次長)

皆さん、長時間にわたりまして、様々な観点からご意見をいただきましてありがとうございます。また、アドバイザー様にも様々な方面からご提言、ご助言をいただきましてありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、総務部長からあいさつ申し上げます。

(総務部長)

長時間にわたりありがとうございました。次回には本日までの皆様方の意見を踏まえて、また施設を造ったものの責任を考えまして、次回までには当局のたたき台をお示しして議論いただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(総務部次長)

これをもちまして第3回南砺市公共施設再編計画検討委員会を閉会いたします。

終了：21時00分